

<プレスリリース>

2010年3月1日

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

URL <http://www.t-s-r.co.jp>

東京都千代田区岩本町 3-7-4 TSR ビル

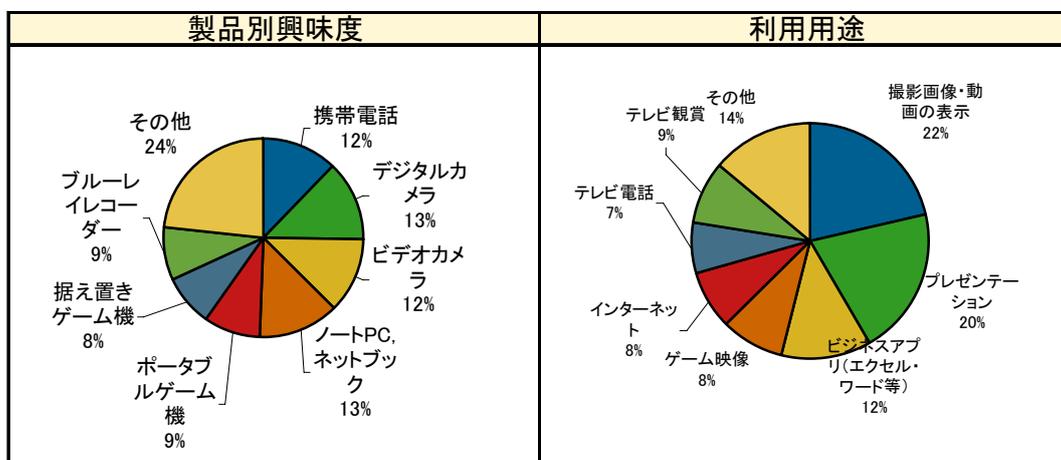
代表取締役社長 藤田正雄

『組み込み型プロジェクターは複数人で動画や画像をシェアする用途に興味あり：エンドユーザーサーベイ結果から』

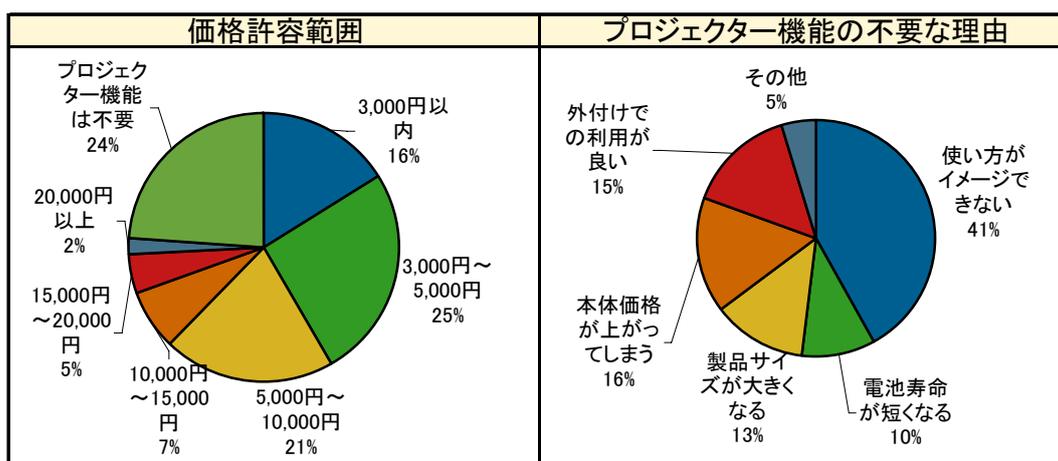
株式会社 テクノ・システム・リサーチは2009年12月に発刊しました『[Embedded and Small Projector 市場分析調査 2009](#)』の、ユーザーサーベイ編において、携帯電話やデジタルカメラへプロジェクターを搭載した製品となる超小型プロジェクターに関する400人以上のエンドユーザー(男性80%, 20-40代中心)にサーベイを行いました。

組込型プロジェクターは2008年後半から製品化されたものの、未だエンドユーザーの認知度が低い状況です。当調査においては、プロジェクター利用経験ユーザーを中心に調査を行っていますが、組込型プロジェクターに対し興味を示すユーザーは多く、従って潜在需要も大きいとみております。

製品用途別興味度(左下図)においては、ノートPC(ネットブック)及びデジタルカメラ、ビデオカメラに高い興味を示しています。特にビデオカメラは昨今の低価格化による普及で、同製品への組込プロジェクターへの興味度も高まっています。



利用用途(右上図)では、プロジェクター機能を組み込むことで、既存のプロジェクターでは利用されなかった新しい利用用途に、撮影画像や動画の表示を行い、友人や家族とシェアする為に、プロジェクター機能を想定するユーザーが多くなっています。殆どのモバイル製品は複数人数でディスプレイを閲覧する仕様になっていない為、プロジェクター機能を利用することによって上記の問題点を解消できる事がその背景とみております。



プロジェクターが組込まれた事による価格上昇の許容範囲は全ての製品において 3,000 円から 5,000 円が最も多くなっています。スタンドアロンのプロジェクター本体が安価でも 30,000 円～40,000 円するのに対し付加価値として 10 分の一程度で収まっている背景は、プロジェクター機能の不要な理由として最も回答数の多い、「使い方がイメージできない」ことが影響していると考えられます。

つまり、組込プロジェクター機能は興味が高いものの、利用用途の確立が不十分であることから製品価格の上昇や製品需要の拡大に直接結びにくい状況であると言えます。今後の組込プロジェクターの普及には利用用途の確立が急務とみております。

【プレスリリース及び調査資料のお問い合わせ先】

株式会社テクノ・システム・リサーチ
 第2グループ 木村 準一
kimura@t-s-r.co.jp

TEL:03-3866-4505
 Fax:03-3866-8248